

全国植樹祭イベントによる森林への理解醸成の取組

1 はじめに

県では、令和5年に開催する全国植樹祭の機運を盛り上げるため、植樹祭の参加者が植える苗木を県内の「森林愛護少年団」等に育ててもらい「苗木のスクールステイ」を行っています。

この度遠野農林振興センター(以下「当センター」という。)では、『苗木の引渡し式』の開催に併せて、少年団員に森林や山の仕事に関する説明等を行いましたので、その取組について報告します。

2 苗木の引渡し式

当センターでは、5～7月に、管内の少年団10団を訪問し、「苗木のスクールステイ」の開始にあたる『苗木の引渡し式』を行いました。

引渡し式では、普及指導員が全国植樹祭の概要、育ててもらった苗木の特徴などを説明したほか、山の仕事や遠野市の森林づくりの講話をしました。



普及指導員の話聞く少年団員

説明を聞いた少年団員は、全国植樹祭の理解を深めた様子で、山の仕事の話では、「山の七つ道具」や「熊鈴やクマよけスプレー」などの説明に興味を示していました。



苗木を受け取った少年団員

3 おわりに

引渡し式には、遠野市内の全児童数の3割を超える314名の少年団員が参加しました。

参加した子供たちの学年が少年団ごとに異なり、対象学年に合わせて説明を工夫するなど苦勞もありましたが、『苗木の引渡し式』を通じて、森林や森林づくりの大切さなどの理解を深めることができ、有意義な取組となりました。

今後は、引き渡した苗木が健全に育つよう各小学校を訪問し、生育状況の確認を行っていくことにしています。